



イベントの内容を写真でご紹介します！

ブックンロール2013～やっぱり本屋は面白い～
 【出演】
 <トークの部> 「いま話したい、地方と東京の書店の話」
 田口幹人(さわや書店フェザン店:盛岡)
 辻山良雄:司会(リプロ池袋本店:池袋)
 長崎健一(長崎書店:熊本)
 花本武(BOOKSルーエ:吉祥寺)

BOOK'N'ROLL 2013 ~やっぱり本屋は面白い~

<ライブの部>
 長谷川バンド(BOOK EXPRESSデリラ大宮店長谷川さんのバンド)
 C調ボーイズ(夏葉社島田さんのバンド)
 ブックスピストルズ(「吉っ読」のバンド)

企画・主催:空犬



137人も業界関係者を中心としたお客さんが集まったブックンロール。盛り上がりにも盛り上がったライブの後、熱いトークがかわされました。4人の書店にける熱い思いに、みなさん真剣に耳を傾けていました。イベント終了時には拍手喝采！！

空犬さんも参加 7月19日発売

「本屋図鑑」
 著者: 得地直美 / 本屋図鑑編集部
 発行: 夏葉社

「生活のなかにはいつも本屋さんがある」というコンセプトで、日本全国の、駅前の、商店街の、ショッピングモールの中の、島の、町の書店の魅力を紹介する本、それが『本屋図鑑』です。約70店舗をすべてイラストで書き下ろし。

空犬さんから 書店で働くみなさんへ

「出版不況」がどうとか「電子化」がどうとか、メディアで取り上げられる業界の話は暗いもの、厳しいものが多く、たしかに本をとりまく世界が厳しい状況にあるのも事実です。でも、出版不況などという、ことばと業界が無縁であったころに比べて、「本」が力を失ってしまったのかという、そういうわけではありません。いまもなお「本」には人を動かす力があり、魅力的な商品であり続けています。

作り手の我々や、売り手のみなさんが、「本の力」を信じていなければ、読み手のお客さんたちにそれが伝わるはずも、届くはずもありません。みなさんが日々扱っているのは、たった数百円で人の心を大きく動かさしめる、大きな力をもったものだと思います。

「本の力」を信じて売って続けていた、きたいなあと、出版関係者としてではなく、本と書店を愛する者の一人として、そんなふうに思っています。

ブックンロール発起人 空犬さんに聞きました。



2013年6月28日 東京都阿佐ヶ谷に名だたる書店員たちが一堂に集まった。そこで行われたのは

ブックンロール2013

その名の通り
 本・書店・音楽をテーマにしたトーク&ライブイベント。
 開催当日は137人も書店員・業界関係者が集まった。
 4回目となるこのイベント。主催しているのは出版社で勤務しながら書店・出版情報を発信し続けている空犬さん。
 ブログ「空犬通信」には毎日400人ほどが訪れ、ツイッターは4000人以上にフォローされている。
 今回は空犬さんの活動やブックンロールの発足理由についてご本人にお話を伺った。

空犬



都内の出版社勤務。
 ブログ「空犬通信」にて書店業界の情報発信を行っている。
 出版・書店テーマのトークイベント、beco talkを企画・主催。年に一度開催している本と書店と音楽のイベント「ブックンロール」を主催。趣味は読書、音楽(聴く、演奏するの両方)、パードウォッチング、など。
 吉祥寺書店員の会「吉っ読」を主催。

空犬さんのこと

■プロフィールを教えてください。
 1968年に千葉県で生まれ、すぐに大阪に引っ越し、高校卒業までを過ごし、現在は東京都内の出版社で編集の仕事をしています。
 物心ついたときから、本と書店が大好きで、近所の小さな本屋さんに毎日のように通っていたのを覚えていますが、本好きというよりは本が並んでいるその空間が好きなんです。書店はもちろん最高だし、家の書棚も大好きですね。

「空犬」として活動し始めたきっかけを教えてください。

■「空犬」として活動し始めたきっかけを教えてください。
 ブログ「空犬通信」を始めたのは2006年。出版社で編集の仕事しながら、本の世界っておもしろいんだよ、ということの本業(本作り)以外の形でも自分なりに伝えたいと思うようになりました。本の紹介や書評をしている人はたくさんいたので、自分は何か違う形だと思い、書店の紹介をメインにするようになり、書店の紹介をメインのブックカフェでトークイベントをするなど、定期的に活動しています。
 ただ大前提は本業を絶対に手を抜かないこと。イベントを理由に自分の担当している本が遅れるなどということは絶対にないように気をつけていますね。

今までどれくらい書店を訪問しましたか？

■今までどれくらい書店を訪問しましたか？
 正確ではないですが、リストにしているのは関東以外も含めて200〜300店舗

ブックンロールのじゆ。

ブックンロールってなんですか？

開催初年の2010年、もう本の世界は「不況」という言葉とセットで語られるようになっていました。元気の無い、斜陽の業界とばかりメディアで言われているのを見ていて、そればかりではいけないのになんか思っていました。
 「本の現場やそこで働く人たちは、今もこんなにおもしろいと伝えたい」。そういう気持ちで企画したのがブックンロールだったんです。
 その名の通り、「ブック」＝本と「ロール」＝音楽を融合したイベントです。
 僕は本以外にも音楽が好きで、たまたま書店業界の知り合いにも音楽好きが複数いました。ならば、と書店員の素人バンドを組み、披露することになりました。
 本格的に音楽をやっている人に頼むことも出来ましたが、そうではなくて「書店員が何かをやる」というのを見せたい。それが実現はしませんでした。当初は、学研の『大人の科学』などの付録で付いているおもちゃ楽器だけで演奏するという案もありました。すぐ書店員ばいという案もあり、イベントで集まったお金は被災地支援と団体、「こども」とあゆむネットワークに寄付しています。

参加者の反応は如何ですか？

■参加者の反応は如何ですか？
 お陰様で、ご好評頂いています。特にトークの部は毎年すごく参考になったとの声を頂いています。
 去年のテーマは「ある本をどのようにして読むか」。1冊の本を課題図書としてピックアップし、現役書店員さんに、それぞれも充実した内容だったと思います。ただ、去年はキャバ50人の会場に、予想を大幅に上回る150人超の方がお集まりになり、会場に入れないという事態になってしまいました(汗)。今年はそのような

こののないよう、広めの会場を準備しています。
 ■今回のトークテーマについて 教えてください。

今回のトークテーマは「いま話したい、地方と東京の書店の話」。今回は地方の書店として、さわや書店の田口さん、長崎書店の長崎さんが参加してくれる事になりました。去年、お二人とお話する機会があり、この人たちの話を僕だけが聞くのはもったいないと思いましたが、そうなるようにがんばっている人たち。地方の本屋さんの事を、記事ではなく当事者の言葉で東京の書店の方にも聞いてほしい。という今回のテーマになりました。
 お二人とも、ブックンロールのためだけに東京に来てくださるんです。ほほいきなり出演の話を持ちかけ、しかもノーギャラの上に交通費までかかる……。にも関わらず、「自分でよければ」と即答してくださいました。かっこよすぎますよね。お二人の勇気に、本当に感謝しています。

主催の意気込みをお願いします。

■主催の意気込みをお願いします。
 これまでも、すばらしい書店員さんたちが出演してくれましたが、今回は地方から、それも、多くの業界関係者に名を知られ、リスクを集めてくれるお二人に参加していただけたことになりました。
 そして、リプロの辻山さんにBOOKSルーエ花本さん。おそろしく個人が企画しているイベントとしては最高の出演者だと思っています。企画者として、皆さんの思い・魅力を存分に引き出すよう、全力を尽くしたいと思えます。
 この業界には今もこんなにすごい人がいるんだ、こんなに面白いことをしている人がいるんだ、ということを知ってもらいたいと思っています。

書店情報発信中 空犬通信はこちら

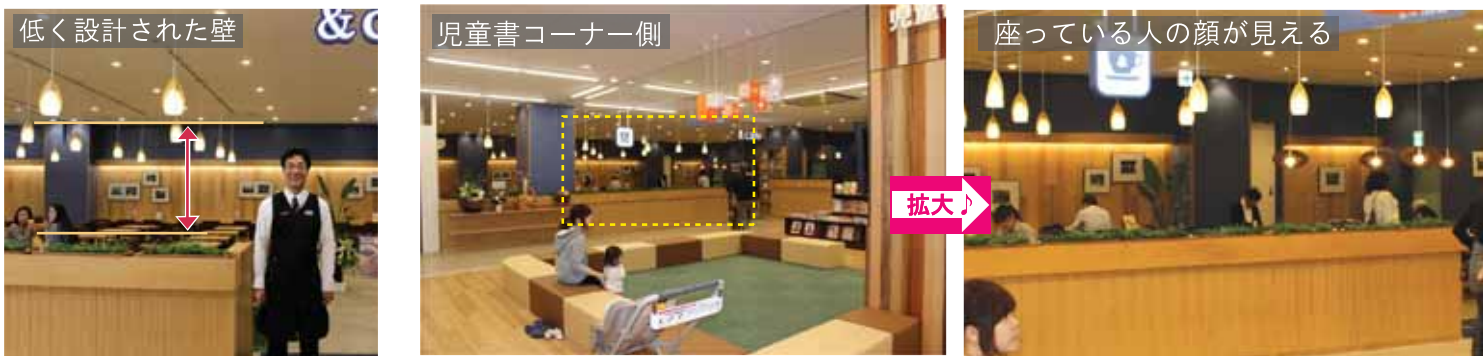
sorainutsushin.blog

大垣書店親子で楽しむ



児童書&カフェコーナー

目線に合わせた展示・設計



▲カフェの壁は大人の腰くらいの高さと低く設計され、イスに座ってもカフェ側、プレイスペース側どちらからもお互いの様子が確認できる。 ※2



▲絵本の試し読みが出来る「ためほんくん」 ※1
子供用の小さな椅子が設置されている。取材中もお母さんと一緒に一生懸命画面をタッチする子供の姿が。



▲児童書コーナーと併設したことでカフェが店の一番奥にあるという作りになっているが、入口からカフェまでの通路に障害物をなくすことで外からでもカフェが中にあるのが分かるような作りになっている。

店長&児童書担当者さんに聞きました♪児童書コーナーオススメ本



坂根店長オススメ
「それいけ! アンパンマンコーナー」
アンパンマンミュージアムに隣接しているということで、アンパンマンシリーズが充実しています! お子さんにも大人気ですね。

児童書担当 沼さんオススメ
「ラチとらいおん」 「完全に個人的な趣味ですが(笑) 弱虫のラチが成長していく姿がとても良いです! 3万5千冊もの冊数を担当するのは初めてでドキドキしています。また来たいと思ってもらえるような売りにしたいですね。」



ここも注目! 大垣書店の防犯対策

650坪という広い敷地ではしっかりとした万引対策が必要。当店ではメイン入口だけではなく、トイレやカフェ等の主要通路に防犯ゲートがしっかり設置されている。また防犯ゲートには「来客カウンター」が付属しており、通過する人数を自動でカウントすることができる。変動する人の流れを掴むことができ、効果的な販促と人員配備が出来ます。



▲来客カウンター付き防犯ゲートWAVE RⅡをご導入頂きました!



大垣書店 神戸ハーバーランドumie店

神戸市中央区東川崎町1-7-2
神戸ハーバーランドumie NORTH MALL5階
TEL:078-382-7112

4/18 OPEN! 大垣書店神戸ハーバーランドumie店



2013年4月18日、京都を中心に26店舗を展開する大垣書店が、兵庫県初出店となる神戸ハーバーランドumie店をオープンした。家族をメインターゲットとした当店は、同社最大の蔵書冊数を誇る児童書コーナーをはじめ、書籍、CD、文房具、雑貨、カフェスペースを融合し、大人も子供も楽しめる空間を演出している。

Q 売り場作りのポイントを教えてください。
まずは大垣書店最大の蔵書冊数である児童書コーナーです。全体蔵書冊数の割にあたる3万5千冊の児童書を用意しました。売り場内には「ためほんくん」(左P※1)を設置しています。そして、もう一つのポイントは児童書コーナーとカフェを隣接させたことです。カフェコーナーの壁はあえて低く作り、カフェからプレイスペースに目が届くように設計しています。(左P※2)
お子さんを遊ばせながら、お父さんお母さんには自分の時間を過ごしてもらえます。全国で縮小傾向にある児童書ですが、ここで新たな本と出会って頂き、ゆっくり親子の時間を過ごしてもらえればと思います。またカフェでは神戸の業者さんから仕入れたパンやケーキを提供しています。神戸ではまだ大垣書店の知名度は低いと思いま

Q 兵庫県初出店の経緯や、お店のコンセプトを教えてください。
ここ神戸ハーバーランドは長年大型店の撤退が相次いでおり、集客力不足を理由に書店の出店が無いという問題がありました。しかし本屋を望む地元の声は多かった。本を望む人に本を提供するのが私たちの仕事です。神戸という土地は未経験ですが、「地域の皆さんに喜んでもらえる本屋を作ろう。」という社長の意志のもと、出店が決められました。
また、コンセプトは「ミナトで過ごす家族の時間、やすらぎの空間」とし、家族をメインターゲットにしています。集客力不足の原因の一つに、ハーバーランド周辺の駐車場は価格が高く不統一という問題がありました。しかし、この度ハーバーランド再生計画により、平日の3時間が無料と価格が統一され、家族の方にもゆとりと過ごして頂くことが可能になりました。また近隣にはアンパンマンミュージアムがあり、お子様連れの集客が期待できます。

Q 今後の抱負を教えてください!
まずはこの広い店舗でのオペレーションを確立させることです。650坪の中には書籍だけではなく、CD・DVD・カフェ・雑貨・あらゆる商品を用意しています。ただ各商品を売るのではなく、ジャンル間でしっかりと連携を取っていきたく。児童書コーナーの横にカフェがあり、映像化されたコミックコーナーの横にCD・DVDコーナーがあることすべてに意味があります。僕が中心となって各ジャンルのスタッフを束ねていきたいです。
この広さではあらゆるサービスやイベントが提供できるのではないかと考えています。店長を任せられた以上、自分でもどこまでやれるか楽しみですね。

坂根店長に
お話を伺いました!



7千周辺情報



西日本で初めてオープンした「神戸アンパンマン どもミュージアム」

ジャムおじさんのパン作りの手伝いを体験できるコーナーなどがあり物語の世界に入り込むことができます。オープン当日は親子ら2500人が列をつくる人気ぶり★



「umieモザイク」

ハーバーランドの海側、神戸港を見渡す絶好の位置にあるオープンモール。個性的な店舗が集まり、潮風を感じながら神戸での一日を満喫できます。夜は夜景がきれいな定番人気デートスポット!

まずはこの広い店舗でのオペレーションを確立させることです。650坪の中には書籍だけではなく、CD・DVD・カフェ・雑貨・あらゆる商品を用意しています。ただ各商品を売るのではなく、ジャンル間でしっかりと連携を取っていきたく。児童書コーナーの横にカフェがあり、映像化されたコミックコーナーの横にCD・DVDコーナーがあることすべてに意味があります。僕が中心となって各ジャンルのスタッフを束ねていきたいです。
この広さではあらゆるサービスやイベントが提供できるのではないかと考えています。店長を任せられた以上、自分でもどこまでやれるか楽しみですね。

まずこの広い店舗でのオペレーションを確立させることです。650坪の中には書籍だけではなく、CD・DVD・カフェ・雑貨・あらゆる商品を用意しています。ただ各商品を売るのではなく、ジャンル間でしっかりと連携を取っていきたく。児童書コーナーの横にカフェがあり、映像化されたコミックコーナーの横にCD・DVDコーナーがあることすべてに意味があります。僕が中心となって各ジャンルのスタッフを束ねていきたいです。
この広さではあらゆるサービスやイベントが提供できるのではないかと考えています。店長を任せられた以上、自分でもどこまでやれるか楽しみですね。

professional

〔プロフェッショナル〕

啓文堂書店 三鷹店

第20回 西ヶ谷 由佳

“本屋は立地でも規模でもなく、
ささいな努力の積み重ね”

太宰治をはじめ数々の文豪を生み出した、文学の町三鷹。JR三鷹駅の目の前のビルに店を構えるのは、京王線・井の頭線沿線地域を中心に展開する「啓文堂書店」の三鷹店。お店をのぞくと、棚や平台各所にPOPはもちろんフリーペーパーが置いてある。この売り場を手掛けているのが西ヶ谷さん。気に入った作品は猛烈プッシュ、本にかける情熱と本屋を楽しむ気持ちは人一倍！そんな西ヶ谷さんにお話を伺った。



啓文堂書店 三鷹店

にしがや ゆか 西ヶ谷 由佳

東京出身。文芸・人文・芸術・自然科学・コミックなど数々のジャンルを担当。「自称本バカ」その名の通り、商品知識は豊富。地域、会社の枠を超えたセレクト文庫フェア「ナツヨム2013」(※左1)の仕掛け人であり、2012年の本屋大賞プレゼンターを務めるなど業界内でも広く活躍している。

書店員になったきっかけを教えてください。

子供の頃から本が大好きで、大学時代は司書を目指していました。でも現役では合格できず、とりあえず来年の試験まで一年間は働こうと思い、アルバイトとして啓文堂に入ったんです。そしたら本屋の仕事は楽しくて私にとって天職でした。気が付いたら、何の疑問もなく自分は本屋になるのだと思っていました。そのまま社員として働くことになり、今年で13年目になります。

今年5月から新たに三鷹店に異動したとのことですが三鷹ならではの取り組みはありますか。

多摩センター店から三鷹店に異動して感じたことは商品の動き方の違いでした。駅中である多摩センター店では新刊台から話題本が売れていくのに対し、三鷹店は棚から既刊本が売れていくお店なんです。そのため流行作家メインだった仕入れを見直し、文学などを好む三鷹のお客様にあった商品を選定するようにしました。文庫になった単行本も良い物は売れるので、返品せずに残すようにしています。実際に書評などを読んで選び抜いた商品はしっかり売れています。よく棚を通してお客様と話すとありますが、まさしくその通りで、努力した分だけそれに答えてくださいます。こんなに楽しいことはないですね。また、三鷹といえば数々の文豪を生み出した町。太宰治をはじめとする三鷹ゆかりの作家や版元の商品をジャンルに限らず集めた「地元棚」にも力を入れています。(詳しくは左ページ)こちらとても反応が良いですね。

「地元棚をみるとPOP以外にフリーペーパーが置いてありますが、あちらも西ヶ谷さんが？」

働く上で心掛けていること、大切にしていることはありますか

半分趣味もありますが、本は1日1冊を目標に読むようにしています。地元棚に関してはゼロから作ったので、三鷹店に来てから三鷹についてかなり勉強しました。プロフェッショナルとして取材してもらっていますが、やっていることは普通なんですよね。あたりまえのことを当たり前にやり続けるのがわたしの仕事だと思っています。本屋は立地でも規模でもなく、ささいな努力の積み重ね。それと情熱！あとはそれらの仕事を楽しくすること、もしくは周囲から楽しんでるように見えるよう、心掛けています。



◀▲フェア台やおススメ本の横に置かれているフリーペーパー。ピシリと文字が書かれた紙面から、西ヶ谷さんの作品への熱烈な思いが伝わってきます。しかもすべて手書き。

これまでの書店員人生で印象に残っていることを教えてください。

お客様に「あなたがここに置いた本が私の人生を変えた」と言われたことです。

その方は、「とても辛い体験をして、どうしようもなく落ち込んでいた、でもこの本に生きる勇気をもらいました」とお話ししてくださいました。その本はなんてことのない普通の小説でした。ただ深く内容がポジティブで私はすごく良いと思って多面展開をしていました。それをたまたま見て手にとって下さった。「落ち込んで本を読むこともできなかったがなんとなく魅かれたんです」とおっしゃって下さったのを聞いて、嬉しさと同時に、この仕事の必要性を感じました。

私がここに置いていなかったら、その方はこの本に出会わなかったかもしれません。3.11の直後「こんな時に、こんなことを書いて良いのか」と言ったエントリーテイメントの小説家さんがいました。でも、震災後に本を求めるお客様の声や、このお客様のお話を聞いて、やはり本も本屋も必要とされているんだと強く感じました。

全国の書店員さんに一言

書店業界は暗い話題も多いですが、本や本屋の仕事が楽しいと思っている書店員さんは沢山いると思います。その気持ちをどんどんアピールしてほしい。本屋は楽しいんですよと何度も大きな声で言うことで、本屋に人が集まるようになればと思っています。そして実際に「この本屋にくると面白いことをやっているぞ」と思ってもらえるような努力を続けていきます。

西ヶ谷さんセレクト「地元棚」

西ヶ谷さんの案内する「文学のまち」三鷹を少しだけ紹介♪

こんな本が置いてあります

お隣のまち吉祥寺が舞台のおはなし。

碧野圭
「書店ガール」

三鷹の版元夏葉社編集

山本善行
「故郷の本箱」



▼「文学のまちみかたMAP」

地元棚に並んでいる本はただ単に三鷹ゆかりの書籍を集めたわけではありません。実は?! 本と本のつながりが沢山仕組まれています。西ヶ谷さん作フリーペーパーがあればより詳しく「文学のまち」を探検出来ます。

太宰治の横に何気なく並んでいる女性作家さん実は…?!

太田静子
「斜陽日記」

娘

太田治子
「明るい方へ」

太宰治
「人間失格」

愛人

太宰治愛情(憎?)劇

歴史的な文豪でありながら愛人問題でも有名だった太宰治。並んでいるのが本で良かった…。笑

石原美和子

太宰の作品中に何度も登場する。太宰の死により三鷹を離れることに。

娘

津田裕子
「火の山」

※1

WHAT'S? ナツヨム

ナツヨムは、「地域も会社も超えた業界関係者による夏のセレクト文庫50冊フェア。」版元や書店員が自信を持ってオススメする1冊を選び、手書きでオビを付けるというもの。夏の文庫コーナーにはどこの店も同じものが並んでいる…との気持ちで西ヶ谷さんが発信したこの企画。去年は会社の枠を超え、全国24店の書店が参加したとのこと。今年も開催中!

▲三鷹店アルバイトさんデザイン帯

西ヶ谷さんの「いちおし」★BOOKS

「重版出来！」

ビッグコミックス 松田 奈緒子(著)

新人編集者を主役に、マンガ業界を支える裏方の仕事を描く職業ドラマ。

オススメ理由

出版業界はマイナスな事ばかり話題にされがちだけれど、本屋で良かったこの仕事への誇りを再確認できるお話。本の作り手、売り手、お客様が繋がる瞬間が大好き。「売れたんじゃない売ったんだ。」というセリフに激しく共感できます。業界のネタとして面白いだけでなく、働いているすべての人に読んでもらいたい本です。

▲アルバイトさん手作りフリーペーパーとPOP。作品への情熱がものすごく伝わってきます！作品も素晴らしいですがこのフリヘも負けじと名作。